


人文社会科学・文化的観点から見た宇宙開発の可能性と 課題に関する研究「宇宙と文化に関する研究会」

Study on Human Space Activities and Culture

 **キーワード** 宇宙開発、文化、宇宙観、天文学、宇宙文化

1. 調査の目的

宇宙開発は地球を外から眺めることを可能にし、宇宙の中の「かけがえのない星」という地球観、また宇宙へ飛び立った宇宙飛行士たちの新たな生命観が、我々の意識に大きな変革をもたらしている。現在我が国も参加して国際協力により建設が進められている国際宇宙ステーション（ISS）は、単なる宇宙インフラストラクチャーとしての利用や理工学的成果にとどまらず、新しい宇宙観、地球観、生命観を育み、新しい文化・産業の創出をもたらす可能性が秘められている。

本研究では、このような宇宙活動が人類にもたらすと考えられる新しい視点や可能性、またそれとは逆に宇宙活動において克服されるべき人文社会科学的諸課題等について、従来の理工学的視点に偏重せず、多分野の研究者・有識者が参加して自然科学、人文・社会科学が融合した総合的な視点から議論し、その成果を広く社会に提言することを目的とする。

2. 調査研究の内容

多分野の有識者で構成される「宇宙と文化に関する研究会」（顧問：五代富文前宇宙開発事業団副理事長、現宇宙開発委員会委員、研究代表：東久雄大阪府立大学教授、事務局：未来工学研究所）を設置し、以下の課題について広い視点から検討を行った。

(1) 宇宙活動の人文・社会科学的意義に関する検討

- 宇宙活動とは人類にとって何であったか、何であるか、何であり得るか？
- 宇宙と人類の関わりについての歴史的、哲学的、思想的意味 など
- 特に関西における宇宙と地域の関わりを発掘。

(2) 宇宙活動がもたらす新しい社会・文化的展開の可能性に関する検討

- 「宇宙ルネサンス」など新しい価値観、世界観、宇宙文化創出の可能性など
- 科学大衆化（社会化）時代における宇宙活動の在り方。社会と調和した宇宙活動とは？
- 人類が抱えるグローバルな諸課題に果たす宇宙開発の役割など

(3) 我が国からの文化発信としての宇宙活動に向けた検討・提言

(日本の文化的アイデンティティと宇宙活動の観点を踏まえた提言)

(4) その他

- 多分野の国内外の有識者・文化人とのネットワーク構築(将来の関西における「国際宇宙文化研究センター」(仮称)設立に向けた予備的活動 ほか。
- IAF への提案、NASDA の関西でのシンポジウム(構想)への協力、「宇宙と文化」をテーマにした独自シンポジウムの構想など。

3. 調査研究成果概要

■ 宇宙と文化に関する議論の必要性と課題について

様々な分野の文化人や有識者等との意見交換を通じて、今日の日本にとって、将来に希望を持てるビジョンを描くことが求められており、宇宙開発において日本的な夢を結集出来るようなコンセプトを打ち出すべく文化・芸術を含めた広範な議論の必要が再認識された。しかし、一方で日本においてこのような観点からの検討はほとんど行われていないことから、専門研究者の育成とともに、宇宙関係者と人文社会分野の効果的な連携体制を構築することが課題である。欧州においても「宇宙と社会の関わり」の観点から議論が進められており、日本におけるこのような取り組みは注目され、共同での国際ワークショップを求める声も出ている(国際宇宙会議 IAF関係者との会合で)。

■ 宇宙活動がもたらす新しい社会・文化的展開の可能性に関して

研究予算、期間等の関係により、本研究会では検討領域を以下の5つに絞ることとした。

宇宙活動の意義について、日本人の宇宙観・宗教観の変遷、環境との関わり、教育分野における可能性、その他。

長期的には人類の宇宙進出は人類の将来に選択肢を残すという意味で意味がある。短期・中期的には宇宙活動の拡大により地上の多くの人々が宇宙からの視点を持ち、「かけがえのない地球」という意識を共有することで新しい世界観、地球間、人間観が創出されるという可能性について、有識者、文化人との意見交換の結果も踏まえ一つの考え方を整理した。

■ 関西からの宇宙文化の発信

関西地域における宇宙と文化の歴史的接点について調査し、「関西宇宙文化遺産マップ」を作成した。宇宙と文化について、かつてアジアの多文化融合センターであった関西の知的伝統・文化の蓄積を踏まえた議論を行い、日本の文化的アイデンティティの再発見を試みるとともに、新しい宇宙文化の創出に向けた創造的な議論を行った。これらの成果は今後、未来工学研究所が提唱している日本国際宇宙文化研究センター

(仮称)の設置(関西を想定)に向けた取り組み等に有効活用していく予定である。

キトラ古墳 (7世紀末~8世紀初) 明日香村

(宇宙文化遺産マップより)

高松塚古墳と同様、石槨に精密な天文図(星宿)や、四神図が極彩色で描かれており、高松塚古墳で確認できなかった南壁の朱雀の存在もみとめられた。星の配置は、様式的なものではなく、実際の配置に従っており、星の一つ一つに金箔が貼られている(図1、2)。また内規・外規・赤道を示す三つの同心円と黄道を示す円が描かれており、大陸の宇宙論の影響がうかがえる。

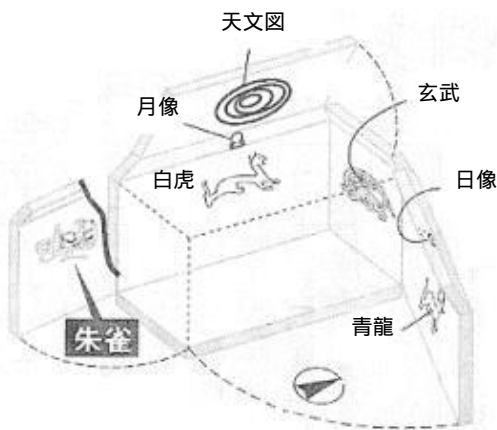


図1 キトラ古墳の模式図²⁾

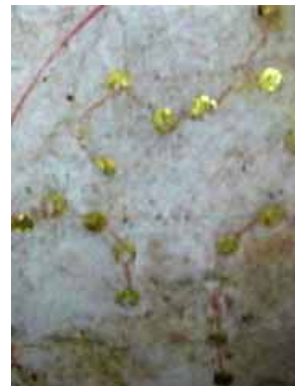


図2 金箔で描かれた北斗七星³⁾